

国東半島宇佐地域 世界農業遺産



クヌギ林



ため池



田染荘小崎の
農村景観



しいたけ



七島簡



どぶろく祭

発行元… 大分農業文化公園
0977-28-7111

制作協力… 国東半島宇佐地域
世界農業遺産推進協議会
097-506-3525

豊後高田市

平安時代から宇佐八幡宮の荘園として発展した田染荘小崎地区は、千年の時を刻む荘園村落遺跡として、2010年に国重要文化的景観に選定されました。

また、都甲地区では、収穫に感謝し豊作を祈る天念寺修正鬼会が今もなお受け継がれています。食文化においては、市内全域で春と秋にそばを栽培するという大きな特徴があり、年2回新そばを食べることができます。三たて（挽きたて、打ちたて、茹でたて）を守る職人技術の逸品を、ぜひご賞味ください。



田染荘小崎地区



修正鬼会



そば

杵築市

杵築市の耕地面積の約4分の3は水田で、かつては水稻に七島簡を組み合わせて栽培されていました。生産の途絶えた七島簡を復興するため、実証圃で栽培を再開しました。今日では温暖な気象条件を生かして杵築市を代表するハウスみかんをはじめとする果樹、野菜、花きなどの園芸品目や肉用牛などの畜産業が営まれています。

また、ため池とクヌギ林を利用した水の循環システムは豊かな生態系を育んでおり、守江湾はカブトガニの日本有数の生息地となっています。



棚田



七島簡植え付け



ハウスみかん

宇佐市

宇佐市は、主に平野部・中山間部・沿岸部からなり、平野部では、県内最大の水田面積を活かし、米・麦・大豆を中心とした穀倉地帯が形成されており、小ねぎ・白ねぎ・いちごなどの野菜も栽培されています。

一方、中山間部では寒暖差を利用したぶどう栽培や山の斜面を利用したゆず栽培など地域の特性を活かした果樹栽培が盛んで、県内最大の産地を形成しています。

また、遠浅で広大な干潟を有した沿岸部では、刺し網漁や採貝等が営まれ、タイやハモ、ワタリガニ、貝類など豊富な魚介類が水揚げされています。



ぶどう



ゆず



麦

国東市

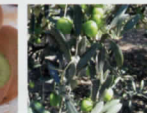
国東市は瀬戸内海の南端に位置しているため、温暖で降水量が少ないのが特徴です。少ない水を活用するため多くのため池が作られ、複数のため池を連携させたシステムが古くから運用されています。その水を使って水稻・温州みかん・しいたけ・畜産等に加え、今では国内唯一の産地となった「七島簡」の栽培が行われています。近年では施設栽培を利用した小ねぎ・いちご・ミニトマト・キク等の園芸作物が盛んです。また、特産品としてオリーブやキウイの栽培を進めています。



七島簡



キウイ



オリーブ

姫島村

車えびは旨みが強く、えびの中でも最高級品といわれています。

姫島車えびは、姫島近海で獲れる天然物と、塩田跡地を利用した養殖物があり、7月から12月頃まで、村内の旅館や飲食店で味わうことができます。

プリプリとした身の甘みを味わえる活き車えびの踊り食いやお刺身、皮ごと調理し、おいしさを逃さずに味わえる塩焼きなど、様々な車えび料理をお出ししています。

ぜひ活きの良い新鮮な車えびを堪能してください。



車えび



アサギマダラ



キツネ踊り

日出町

日出町は国東半島の南東部に位置し、温暖で湧水に恵まれた町です。北側は鹿鳴(かな)越(ごえ)山系に接し、南側は波静かで風光明媚な別府湾に面しており、25kmにわたる海岸線が続いています。温暖な気候を利用して古くから園芸が盛んで、野菜ではキュウリ、トマト、カボチャ、果樹では柑橘類、梨、ギンナンなどが主に栽培されています。日出城下の海中には真清水が湧いており、ここで水揚げされるマコガレイは「城下かれい」と呼ばれ「美味な一品」として知られています。



きゅうり



城下かれい



山田湧水

クヌギ林とため池がつなぐ農林水産循環 国東半島宇佐地域世界農業遺産

世界農業遺産(GIAHS)とは？

社会や環境に適応しながら何世紀にもわたり発達し、形づくられてきた農業上の土地利用、伝統的な農業とそれに関わって育まれた文化、景観、生物多様性に富んだ、世界的に重要な地域を次世代へ継承することを目的として、2002年(平成14年)に国連食糧農業機関が創設した制度。2014年現在、世界13か国、31地域が認定されている。

- ・「能登の里山里海」(石川県能登半島、2011年6月認定)
- ・「トキと共生する佐渡の里山」(新潟県佐渡市、2011年6月認定)
- ・「静岡の茶草場農法」(静岡県、2013年5月認定)
- ・「阿蘇の草原の維持と持続的農業」(熊本県、2013年5月認定)
- ・「クヌギ林とため池がつなぐ国東半島・宇佐の農林水産循環」(大分県、2013年5月認定)

世界遺産(文化遺産)との違いは？

ユネスコ世界遺産(文化遺産)は、遺跡や歴史的建造物などの「不動産」を登録、保護するのにに対し、世界農業遺産は、次世代に継承すべき伝統的な農業の「システム」を認定し、その保全と持続的な利用を図るもの。

国東半島宇佐地域世界農業遺産の特徴

食料及び生計の保障

クヌギ林と森林資源が食料を生み出すことが、食料安全保障に貢献している。さらに、しいたけ栽培用の原木確保のためのクヌギ林が、ため池の水源をかん養しており、それによって、米、シチトウイ、原木乾しいたけ、伝統品種のみどり豆など、多様な農林水産物が生産されている。

生物多様性及び生態系機能

広葉樹林のクヌギ林が維持され、コバノイクビゴケ(植物)、アカザ、クボハゼ(魚類)など、固有種の生息が確認されるほか、オオサンショウウオ(両生類、特別天然記念物)や生きた化石と呼ばれるカブトガニの貴重な生息地となっている。

知識システム及び適応技術

クヌギ林を持続的に活用するしいたけの原木栽培技術と、複数のため池群を連携させるかんがい技術が導入・継承されており、水と土地が不足する地域の状況に適応する独創的な知識システムとして認められる。

文化、価値観及び社会組織(農文化)

独創的な神仏習合の「六郷満山文化」の下で、農業に関連した宗教的、精神的な信仰が深く根ざしており、修正鬼会、御田植祭など農業に関連する特徴的な祭礼が今なお伝えられている。

すばらしい景観及び土地・水管理の特徴

クヌギ林とため池、棚田と畑が農村集落と融合し、半島の丘陵から海岸に接続する土地利用のモザイクをなす優れた景観であり、特に14世紀の耕地・村落の形態を今に残す田染荘は、貴重な歴史資源であるとともに優れた文化的景観である。

世界に誇る農林水産循環システム

日本一の蓄積量を誇るクヌギ林と複数のため池が連携したシステムは、原木しいたけ生産、国内唯一のシチトウイ生産など、多様な農林水産業を担っている。また、森林の新陳代謝・公益機能の維持が図られ、里山の良好な環境や景観保全につながっている。



原木しいたけ

